

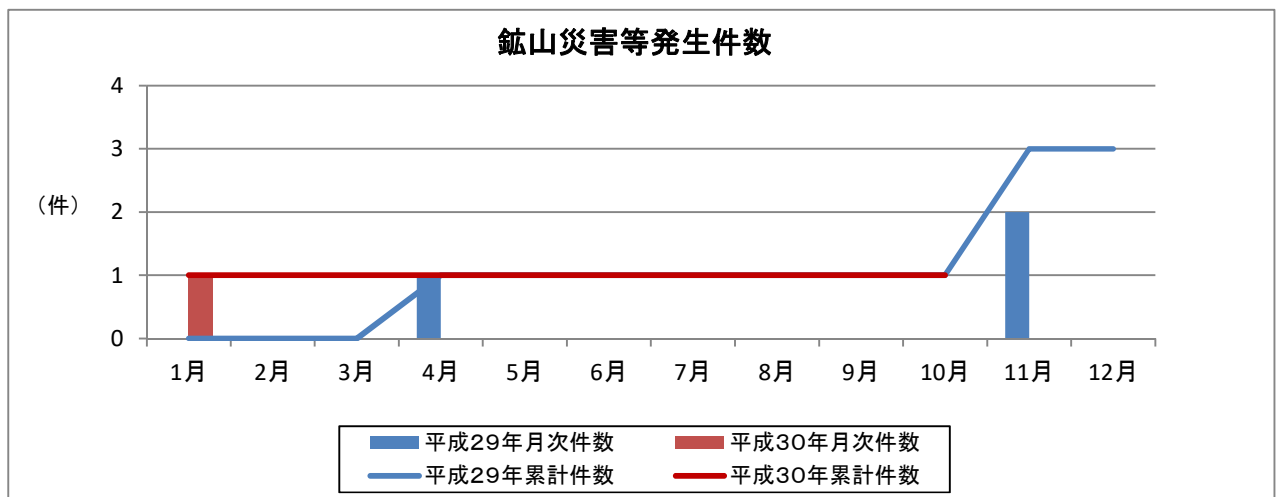
【平成30年】

■管内における事故発生状況(10月速報値)

※数値は事故速報ベースであり、各月のデータ積み上げが年累計と異なる場合があります。

○鉱山保安法関連(災害等)

災害等の種類	30年10月分				前月件数	前年同月件数	30年累計				29年累計			
	件数	死傷者数					件数	死	重	軽	件数	死傷者数		
		死	重	軽								死	重	軽
火災														
取扱中の器材鉱物等のため														
運搬装置のため(車両系鉱山機械又は自動車のため)														
運搬装置のため(その他)										1			1	
墜落														
転倒														
灼熱溶融物のため														
落下物又は倒壊物														
その他														
合計	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	2	0



①【発生年月日】平成30年1月26日

【場所(県名)】岩手県

【事業者区分】石灰石鉱山

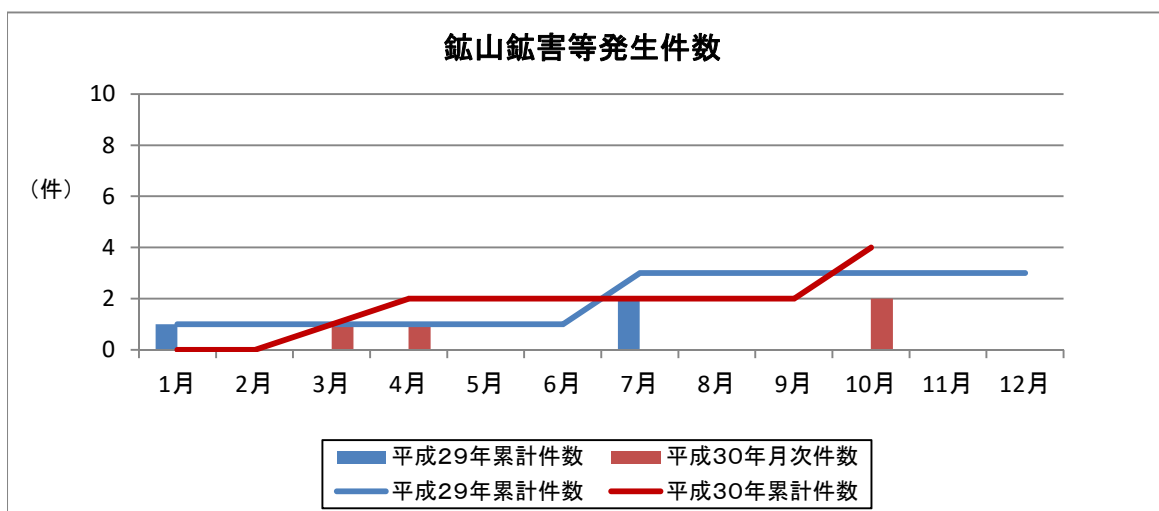
【災害の種類】運搬装置のため(コンベアのため)

【災害の概要】ベルトコンベア運転中、テールプーリに石がこぼれてきたのを見て、停止せず鉄製のテコ(長さ600mm、幅35mm、厚さ10mm)を右手に持って、これを除去しようとしたとき腕を巻き込まれ罹災した。

【被災の状況】重傷1名(右腕神経叢引き抜き損傷、右母指末節骨開放骨折)

○鉱山保安法関連(鉱害等)

鉱害等の種類	30年10月分	前月件数	前年同月件数	30年累計	29年累計
坑廃水	2	0	0	3	0
鉱煙	0	0	0	0	0
粉じん	0	0	0	0	0
集積場	0	0	0	0	0
騒音・振動	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1
小計	2	0	0	3	1
その他自然災害に伴う鉱害	0	0	0	1	2
合計	2	0	0	4	3



①その他自然災害に伴う鉱害

発生年月日:H30. 3. 9 12:40~14:10

3月8日16時から3月9日12時にかけて125mmの降雨があり、処理原水が増加し、処理能力を超えた坑内水(0m坑水、+15m坑水)を貯留する非常貯水槽が満杯となり、溢流した。溢流水のうち、2,700ℓの坑水が道路側溝を経由して河川に流入したと推定される。

②苛性ソーダの排出(基準超過(pH)の廃水排出)

発生年月日:H30. 4. 8(認知)

廃水処理所付近に、緊急時の中和処理施設として設置されていた苛性ソーダタンクから苛性ソーダが漏洩し、防液堤内に貯留されていたが、廃水処理作業員が、不用意に(苛性ソーダと認識せずに)防液堤内をドレン排水した結果、貯留していた苛性ソーダが、鉱山施設の水路を経由し、公共用水域(河川)に排出された。ドレン排水は、推定で3月14日、18日、24日に行われ、苛性ソーダの排出総量は約650リットル。

③油の排出

発生年月日:H30. 10. 3 11:00~

関係者がセパレータタンク下部の木栓を開閉レバー付きバルブに交換しようとしたところ、口径が合わなかったため取り付けできず、セパレータタンク内に溜まった油混じりの坑水(約3,000ℓ)が敷地内に流れ出し、その内の一部を回収したものの約2,000ℓの坑水が敷地内の雨水排出口から、下流の農業用水路へ流出した。

④排水基準の超過(基準超過(銅、亜鉛、溶解性鉄)の廃水排出)

発生年月日:H30. 10. 9 16:30~10. 10 8:20

廃水処理施設の送水ポンプの配管のジョイント部分が外れ、未処理水の一部が河川に流出(流出量は推定で最大147m³)した。周辺の河川においては、魚等への被害は確認されていない。